

※8 仏EcoVadis社が提供する環境、労働と人権、倫理、持続可能な資材調達に関する企業評価。世界160カ国、9万5,000社以上に対して、CSR方針や施策、業績を評価している

「蒲原から世界へ」地域へのコミットで新たな企業像を模索

イハラニッケイ化学工業 株式会社（静岡県清水区、化成品製造業、従業員数148名）

社会的インパクト
創出の
主な事業活動

- ・クリーン塩素を使用した中間体の供給、塩酸熱回収設備によるCO₂排出量の削減（気候変動対策）
- ・ISO 14001による環境マネジメント、密閉された工程で有害物質の漏洩防止（環境汚染リスク低減）
- ・業務遂行スキルの可視化による効率的な能力開発、公的資格取得支援（人材育成）
- ・リスクアセスメントによる労働災害リスクの低減、健康経営の実践（労働安全衛生）

取引先からの環境・人権等への要求が高度化

イハラニッケイ化学工業(株)は、トルエンやキシレンなど有機化合物の塩素化をコア技術として、付加価値の高いファインケミカル製品を幅広く供給することで日本の産業を支えてきた。農薬や樹脂、医薬品などさまざまな製品の原料となる中間体を製造していることもあって、取引先は国内外の大企業が多く、近年は環境、人権、ガバナンスに関するマネジメント体制などの問合せが増えたり、監査基準が厳しくなってきた。特に海外企業からは客観的な評価・監査を求められることも多く、それらに対応するためにも、自社内における意識向上や管理体制の構築が課題であった。

多くの従業員とともにサステナビリティ活動を棚卸し

それまでも、化学薬品を扱うメーカーとして、公害防止や労働安全衛生など法的基準に基づいて厳格に取り組む組織風土・体制はあったが、2022年6月に、松永勝之社長を委員長とする「サステナビリティ推進委員会」を設置し、本格的にサステナビリティ活動をスタートさせた。まずは社内の意識改革が必要と考え、管理職全員がサステナ

経営検定3級を取得。加えて、現状把握を目的にPIFを活用してサステナビリティ活動の棚卸しを行うとともに、今後の方向性や目標を検討した。この時に重視したのが多くの従業員を巻き込むことで、評価作業におけるミーティングには企画、総務、製造、営業など各部署から必ず参加させ、全社的な取組みとしての土壌を作った。

同社のインパクトは、特に環境面において「塩酸熱回収設備」（写真3）の稼働が大きい。事業活動で生じる廃棄物の9割超を占める廃液を同設備で燃焼させ、発生する熱エネルギーを自社で再利用するとともに、塩酸を販売するものであるが、これにより、廃液処理のために遠方まで輸送していたCO₂排出量が削減できるとともに、処理費用も大幅に軽減できることから、社会価値・企業価値双方の向上に大きく貢献している。

グローバル展開の土台として「地域」を重視

現在もサステナビリティ推進委員会を3カ月に1回開催して、目標に対する進捗管理などPDCAを回している。こうした取組みを通じて、環境面だけでなく全方位的な社会課題への対策を試行錯

誤することによってEcoVadis評価※8におけるスコアアップにも寄与。上位35%以内に与えられるブロンズの称号を獲得したことで、取引先からの信頼を得るとともに、シルバーを目指した従業員の一体感醸成にも寄与している。

そして、次の展開としては、さらなる「地域への貢献」を掲げる。地元の自治体と連携して、地域の過疎対策や賑わい創出につながる事業に関わることで、「蒲原の会社として世界に挑戦していきたい」（望月邦朗取締役）と、グローバル企業でありながらその土台としての地域を大切にしていきたいと語る。



▲写真3 塩酸熱回収設備の竣工式